

新 生

なだらかに 親父の山も 眠りけり 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十六年十二月十日印刷
平成二十六年十二月二十日発行

新生第六十六巻 第四号

新 生

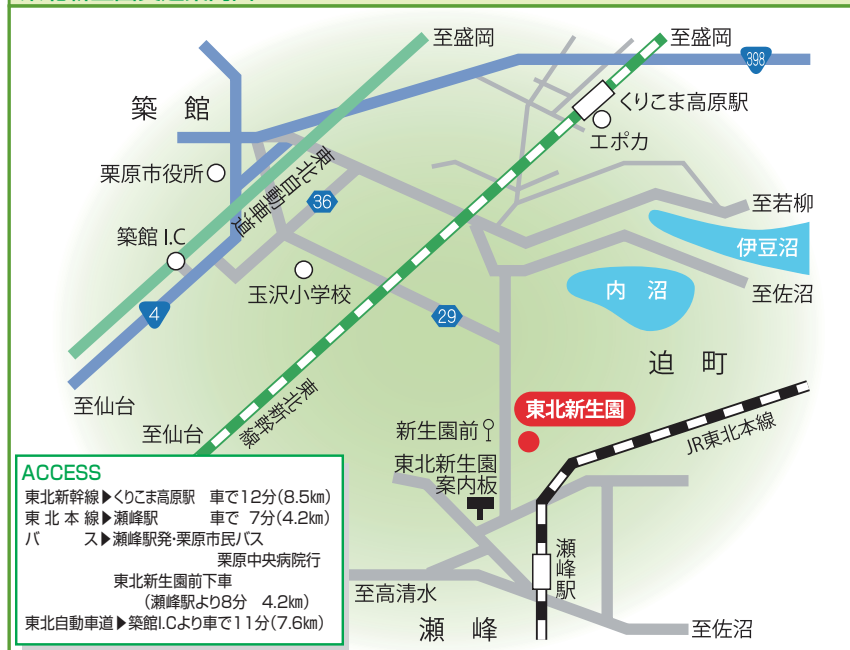
平成二十六年十二月十日印刷
平成二十六年十二月二十日発行

第六十六巻 第四号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男38名 女49名 計87名
職員定員数	153名（平成26年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



東北新生園開園75周年行事

— 平成26年10月27日 —

記念式典



記念品の授与



灯籠流し

819名の亡くなられた方々の
鎮魂を祈りました



園内日誌

平成二十六年 七月～九月

《七月》

十八日 福島県慰問
二十二日 天皇・皇后両陛下御来園
二十六日 第十六回花火大会

《八月》

五日 岩手県保健国保課慰問
十三日 お盆行事（納涼抽選会）

《九月》

五日 楓会発会六十八周年記念物故者慰霊祭
十七日 敬老の集い
十八日 登米市立新田中学校音楽交流慰問
二十六日 第十六回寛仁親王妃杯女子
コスモスゲートボール大会
（二十九チーム参加）

【謝寄贈図書館】

平成二十六年七月～九月（敬称略）

始良野	愛生	多磨	菊池	高野	青松
鹿児島県	岡山県	東京都	熊本県	群馬県	岡山県
星塚	長島	多磨	菊池	栗生	邑久
敬愛	全生	恵生	泉	明	光
園	園	園	園	園	園

平成26年12月10日 印刷
平成26年12月20日 発行

東北新生園楓会(自治会)
文化 部
川内印刷株式会社
行集刷
発編印

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600

開園75周年記念
大泉逸郎さんによる「脳梗塞な まげんな!」
歌とトークの特別講演会

— 平成26年10月22日 —



2011年に脳梗塞を病い、
克服された大泉逸郎さん

入所者の方々との
ふれあいのひととき



宮城県主催
開園75周年記念民謡歌謡ショー

— 平成26年11月7日（金） —

山田美津子さん
(岩手県北上市出身)



あや か
綾華さん
(登米市出身)



司会 木村洋子さん

明るくキレのある司会で
楽しませてくれました





新生・第六十六巻第四号……………目次

表紙…「雪晴れ（白神山）」……………桃生 小富士

新任のご挨拶……………庶務班長…木村 高幸…（2）
三ヶ月経過して……………看護師…菅原 義恵…（4）
よろしく願います……………看護師…重光 明美…（7）
新たな気持ちで……………看護師…菅原 美津江…（9）
入園者と看護師の会話……………今野 きよし…（11）

|| 新生文芸 ||

詩……………選者…佐々木 洋一…（14）
短歌……………選者…長田 雅道…（16）
俳句……………選者…山田 桃晃…（18）
川柳……………選者…栗石 隆子…（20）
よろしく願います……………看護助手…伊藤 友美…（22）
ばんばん……………北村 小蝶…（23）
隣の爺ちゃんと女の子……………今野 きよし…（26）
園内日誌・謝寄贈図書……………

新任のご挨拶

庶務班長 木村 高 幸

十月一日付けで国立病院機構岩手病院から着任いたしました庶務班長の木村高幸と申します。

私は、関信地区の国立療養所東京病院を最初にスタートし、国立療養所東北新生園で一カ所目の異動となりました。

生まれ育ちは、神奈川県湘南地域の鎌倉・葉山の近隣の街「逗子」であります。周りには、鎌倉時代の神社・仏閣の建築物が数多く現存し、海も直ぐ近くでマリネレジャーがとても盛んな所で、サーフィンや釣り等を数多くの人達が楽しんでいる所です。

そんな関信地域を離れ、最初に東北の地へ

足を踏み入れましたのは、青森県にあります国立療養所松丘保養園でした。空気がきれいで水がとても美味しい地域であり、夏場はとても過ごしやすい所です。しかし、冬になると一変し、ものすごい雪の量に驚かされたものでした。

ただし、年が経つほどにその雪にも慣れ、何とか驚きもせず生活ができるようになりました。国立療養所松丘保養園の在職中には、入所者の方々には大変お世話になった思いがありました。

その後、旧国立療養所青森病院へ異動し、病院の統廃合をも経験し、今まで勤務していた施設を閉めるという寂しい経験もいたしました。

平成十六年からは、第一回目の独立行政法人国立病院機構岩手病院勤務のスタートとなり、方針・組織や会計制度も大きく変わわり、今までとは違う体制の基、病院は「運営」から「経営」への転換となり、日々収益を上げ

るべく業務に励むこととなりました。

その後は、国立病院機構山形病院での診療業務、新国立病院機構青森病院での庶務業務と更に第二回目の国立病院機構岩手病院勤務を経て、この程、国立療養所東北新生園への異動となりました。

約十年ぶりの国立機関での勤務となり、日夜、国立病院機構とは違う体制を思い出しながら業務に励んでいるところです。

国立療養所東北新生園着任後は、十月五日（日）第十三回少年少女野球東北新生園大会、十日（金）入所者の方々のパークゴルフ大会の参加、二十二日（水）大泉逸郎さんをお招きしての東北新生園七十五周年記念特別講演・歌とトーク、二十七日（月）創立七十五周年記念日における式典、十一月五日（水）第十三回パネル展等様々な行事の参加を経験させていただいております。

これからも、役職としての通常業務及び入所者の方々と関係する行事を通じ新生園への

貢献をさせていただきたいと考えております。まだまだ不慣れで、ご迷惑をお掛けする事も多々あるかとは思いますが、一日でも早く業務に慣れていきたいと思っております。持てる力を最大限に発揮し、微力ではございますが、施設運営に積極的に参加協力し、貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三ヶ月経過して

看護師 菅原義恵

新生園の皆様、はじめまして。菅原義恵と申します。今年の八月一日より第二メープルケアセンターでお世話になっております。

第二メープルでは、入所者の皆様はじめ、山田師長、看護スタッフ、介護員さん達にはとても親切にいただき、大変感謝しております。

第二メープルケアセンターは、入所者さんのほとんどが自立しているということもあり、QOLの高いケアを求められていると感じました。皆さんが、何を求め、何を考えているのかを察するのは、とても難しいことですが、スタッフの方々から支えられ、毎日学ばせて

とても美しいところだった。」

と話していたそうです。現在も整備された園庭などを見ていて、昔はここもたくさんの方が住んでいたのだろうか？この辺りに花が植えてあったのだろうか？と思いながら、園内を歩いていきます。ハンセン病施設のイメージは、よくNHKの特集でやっているようなものかと思っていたので、地域住民との交流が盛んだったことは驚きました。これからも、この美しい新生園をハンセン病を知らない人達にも知ってほしいと思いました。

園内の行事も毎月あり、色々と参加させていただいています。ゲートボール大会や歌手の方の歌謡ショーもあり、一緒になって楽しんでおります。みなさんの真剣な顔や楽しそうな顔を見ると、私も嬉しくなります。毎月のセンター内のレクリエーションも、介護員さんが中心となり行っています。納涼会やミニ運動会では、ケガをすることなく終了してひと安心でした。同じような内容にならない

いただいています。特に、ハンセン病のことに關しては、知識も浅く、どのような看護が必要なのかと思っていました。日常生活では普通にしているても、皮膚の発疹や知覚神経について、ハンセン病特有の症状や看護があると思えました。一般の病院では、なかなか接することはなく、毎日が勉強の日々です。

また、園の敷地がとても広く、移動が大変だと感じました。入所者さんから、この周りほとんど一般寮で、たくさんの人達が移住していたこと。園では、各役割があり、福祉や売店、縫製、看護師の助手なども、入所者の助手なども入所者さんが行っていたことも話していた。長い歴史の中で、皆さんが力を合わせて園を守ってきたのだと思いました。私の母の実家が若柳町ということ。祖母は何度か新生園に見学に来て、食事をこころになつたそうです。その時に、

「新生園には猿を飼っていて見てきた。周りにはきれいな花がたくさん咲いていて、とっ

よう、毎回工夫をこらして企画するのはとても大変だと思えますが、楽しそうな顔を見ると、こういった事も必要なんだなと感じました。今まで通り、肩を寄せ合って生活を楽しむのを続けていければ良いと感じました。

あと、他の病院や施設との違いは、一般寮だと思えます。これについては、他の施設にはないものだと思います。現在も一般寮には九名の方が居住しています。その中には、自分の畑で野菜を作っている方、外に働きに行っている方もいて、ほとんど一般の人と同じような生活をしています。そういった方々への看護として、月に一回の定期訪問があります。だいたいお変わりはないようですが、高齢ですので、少しの変調も見逃さずに観察するのは難しいです。それでも何とか不自由者棟に入居せずに生活しているのは、入所者同士が気を配り合い、お互いをいたわりあっているせいだと思えました。定期的に家を行き来しているおかげで、体調が悪そうだった、

などの情報を入所者さんからいただき、早期に対応し大事には至らなかったこともありました。昔は、入所者同士が介護をしたり、されたりの関係だったと聞き、改めてこの人達の繋がりやの強さを感じました。

ときどき入所者さんの部屋にお邪魔して昔の話を聞いたり写真を見せてもらったりしています。私が今まで働いていた職場はそのような時間はなく、常に忙しかったので、患者に寄り添うような看護が出来て、今とても充実しています。このように温かい人達に囲まれて仕事していることを本当に幸せに思っています。今はお世話になることの方が多いですが、いずれも私も新生園を守っていけるように頑張っていきたいと思います。末永くよろしくお願いします。

よろしくお願いします

看護師 重 光 明 美

今年の八月一日より東北新生園第一メープルセンターで看護師として勤務させて頂いておられます重光明美（しげみつあけみ）です。

私の名字は東北地方に珍しく愛媛県や広島県が起源で、西日本に多い名字で山陽地方から九州北部に多いようですが、少数と聞いております。戦後外務大臣としてポツダム宣言に調印した重光葵氏やロッテの創業者の重光武雄氏と偉大な方がいらっしやるそうで、入居者の方に親戚かと尋ねられることがあります。聞き慣れない名字で覚えにくいとは思いますが、

秋のバス旅行 定義山

—平成26年10月17日—



ますがよろしくお願いします。

看護師になってから二十年近く経ち、病院や訪問看護ステーションで勤務してきました。進学や結婚に伴い仙台圏で長い間過ごしてきました。内科、外科、整形外科、小児科、歯科等と経験してきましたが、ハンセン病に携わるのは始めてで知識は教科書で習う程度であり、入職前に自分なりに勉強してみました。ハンセン病の後遺症による眼疾患、知覚麻痺等があるということくらいで詳しく知りませんでした。

地元出身でもあり東北新生園はハンセン病の療養所ということは知っていました。業務等の詳細は分かりませんでした。入職してからはハンセン病の原因や治療法、歴史、現在の状況等知らないことが多く、毎日が勉強でした。日々の業務では処置や介助等経験したことが無いことが多くあり、実際に経験してみると特殊性と個性があり、細かな配慮も必要でありました。メモを何度も見ながら

繰り返し覚えようとするのですが忘れてしまい、以前は入居者の方自身で処置をされていた経験もあり、安定した技術だけではなく特殊性を理解し自尊心を損なうことの無い配慮できる信頼関係が改めて必要だと実感しました。入職当初は毎日業務をこなすのに必死で余裕を持つて勤務することができず、入居者の方々に安心を与えることができる看護を実践できているか自問自答することが多いこと、業務を早く習得できない焦りを感じ、ハンセン病療養所での勤務の難しさを実感していました。

ハンセン病の書物や資料を拝見し入居者の方々にお話を伺うと後遺症や合併症での身体的なご苦労を始め、当時の政策による家族や親類との別離の話を聞き自分の子供に当てはめて考えますと想像を絶しました。ハンセン病の歴史に触れ、本当に精神的にも大変なご苦労を経験されてきていることを初めて知り、涙が止まりませんでした。

新たな気持ちで

看護師 菅 原 美津江

私は、九月一日付で新採用となり、第一病棟に配属となりました。よろしくお願いいたします。

再就職しまして、早三ヶ月目を迎えております。入所者さんと接して、緊張の中にもやりがいを感じながら日々努力しております。失敗を重ねながらも、看護師長さん、副看護師長さんを始めとして諸先輩方の丁寧な指導の元、少しずつではありますが、環境に溶け込んでいるのではないかと感じています。早期に園の環境に慣れて、業務内容を把握したいと思ひ焦りもありますが、元来のゆっくりじつくりの性格なので、なかなか迅速には

「相手の立場に立ち、寄り添うこと」が私の看護観であります。想像もできない程多くの苦勞に對し何が出来るかは分かりませんが微力ではありますが、自分が看護師として少しでも役に立つことができるように努力していければ時間は要するかもしれませんが、次第に信頼関係や業務も習得できるようになると前向きに考えるようになりました。

師長を始め、先輩方々の丁寧な指導やアドバイスのおかげで入職して四ヶ月の最近では、少しずつではありますが、余裕を持つて勤務をすることができるようになりました。

入居者の皆様方々にはいつも優しく、見守り声をかけていただき感謝しています。今後何かと慣れないこともあり、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが御指導、ご鞭撻をいただき、少しずつではありますが成長していきたいと思ひます。末永くよろしくお願ひいたします。

いかなる所はご容赦いただきしたいと思います。簡単ですが、自己紹介をさせて頂きます。

看護学校を昭和五十三年に卒業して、栃木県にあります大学病院に勤務しました。その後帰郷し、地元の病院で看護師として働いてきました。一時退職し、仕事から離れましたが、そのことが、私自身改めて看護師として働きたいとの気持ちを強くさせました。今回ご縁がありまして東北新生園に再就職となり、そのチャンスを与えて頂いたことに深く感謝しております。

生まれは、栗原市若柳です。数年就職で離れた以外は、若柳で過ごしております。若柳のここがいいですと直ぐには思ひ浮かびませんが、環境がいい場所であり穏やかに住むには悪くないと思ひしております。家族は夫、息子、母の四人暮らしです。

趣味は、（と言えぬもので長く続いたのが）スキーと学生時代から始めた社交ダンスです。今現在も続けていますと言ひたいところ

ろですが、忙しさにかまけて、ここ数年やれていないのが現状です。特にスキーは、仕事を始めた年に友人に誘われて始めた唯一のスポーツでした。当初は、その面白さに魅かれスキー場に通いました。早くマスターしてきれいに滑りたいとの想いを抱いていましたが、残念ながら、ボーゲンからちよつとだけ脱したくらいでストップでした（笑）。私にとつてスキーの魅力は、滑っている時は、そのことに集中できること、そしてスキー場の環境が気持ちを癒してくれることであり、私の次のステップに進めていける貴重な存在でした。今は、日の目を見ることのないスキー用具が我が家の物置に眠っています。年齢もあり再挑戦は無謀と思いますが、機会があればと秘かに考えています。

今現在は、時間があれば家の周囲をウォーキングしながら見よう見まねのストレッチをしたり、友人とランチをしながらのお喋りを楽しみにしています。日々の生活に追われな

がらも、自分の大事にしたい部分は持ち続けたいと考えています。

今回の再就職にあたり、新たな分野で環境に溶け込み、自分がどこまで入所者さんに寄り添った看護が提供できるか、又技術的に実践できるか不安ではありました。入職して三ヶ月目を迎えた今は、諸先輩のご指導の元、一つ一つじっくり自分のものにしていくことが重要だと考えています。

基本を大切にしながら、新たな職場・環境で前向きに進んでまいりたいと思っております。いろいろな面でご迷惑をおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

随筆

入園者と看護師の会話

今野 きよし

A 入園者 B 看護師

A しばらくぶりでしたね
B そうですね

A どこに行つて来たのですか
B 私の行く所、決まっております
A はあ、いつもの所ですか
B いつも所、東京ですよ
A はあ、東京だなんて銀座に米作っているのですか

B あーれ、良く知っていること
A 看護師さんの行く所、いつもの所って聞いたものですから

B それでは今度べこ飼うかと思っております
A それは大変良いことです
B そうですか、それでは良かった
A いろいろやるんですね
B それは私のことです
A 今のお話どこかで聞いたことある話ですね

B そうですか
A ほんだつて銀座で米作ったり、べこ飼う話聞いたことあります、有名な歌手のセリフですね

B ああ、よくわかつていること、私一度この言葉使ってみましたか、らしい話だね
A それで云つたのですか、らしい話だね
B そうですか、だつて私の話いつも決まっておりますから

A 私はまたかと思えばええですね
B それはそうですよ、まじめに聞かれると次の話云いづらいですから
A それはそうですね

B そうですよ
A それにしても、こういう話をしながら看護師の仕事もしつかりとまちがいなくやるのですね
B 長年の経験なのかなと思います
A そうでしょうね
B 私は仕事の時はまじめにやりますからね
A 初めは別人でないかと思いました
B そうですか、それは良かった安心しました
A 銀座の米作りはどうでしたか
B 今年ね、天候不順で大変苦労しました
A そうですか、米、東京の方だけでなく私たちにもごちそうして下さいね
B もちろんですよ、ごちそうしますから
A 待っていて下さいね
B はい待っております、子供のようには折り数えて待っています
B 楽しみに待っていますね

A 看護師さんは家族の方ともこういう話なさらないですか
B 家に居る時はいたってまじめに、子供たちには優しい母親になります
A はあ、そうですね、子育ては大事ですからね
B そうですね、子供たちはこれからの人ですから
A 子供さんたちには良いお母さんね、私たちにはずーずー弁の看護師さんね、東京に行つて来ると言葉きれいな気がしますね
B あんまりほめられたりしますととまどいますよ
A 東京さ行つて来た時の話と百八十度違ったのではね
B そうですよ、そんなに違ったのではね
A 銀座で米作つて、今度はべこ飼つてなかなか忙しいですね
B それほどでもありませんよ

A こういう話はたまにはええですね
B これからも話をしますよネタを探して
A そうして下さいね、頼みます
B こんな話ばかりすると皆さんに飽きられるでしょうね
A ええでないですか、本音と違つて分かっていきますよ
B それならええですがね
A 心配いりませんよ、皆さんとつくに分か
B かっておりますから
A それならええですが、またかと思われな
B いかと心配しています
A そうでしょうね
B そのうちまた何か考えて来ます
A それはありがたいですね、私たちの生活は決まりきっておりますから、変化がなく
B 私もそう思つて何かを考えなければと苦心しています

A 頼みますよ
B 頼まれるとファイトがわいて来ます
A ファイトわかせて大いに笑わせて下さい
B なんだか私の方は息切れして来たような気がします
A 弱気になつてはだめですよ
B もつと磨きをかけて、カンナをかけて切れ味鋭くやりますから
A ああ、楽しみにしています
B 私もです、力がわいて来た
A 今晚、家に帰つたら何ごちそう作つたら
B ええかなんて考えていたでしょう
A なんだべ、話の腰折られたようだ
B 話うわの空で聞いていたような気がして
A それでは今日はこのくらいにしますか
B どうもありがとうございます
B ごきげんよう

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《風》

北 辰 一 硯

風は無邪気な
いたずらっこだ

綺麗に咲いた
花の首をちょん切ったり

【選 評】

りんごの実や柿の実を
枝ごともしぎ落したり

風には迷惑という
言葉は無いだろう

それでも時には優しい
そよ風となって

草花を喜ばせている

囁き合う

風の言葉となって：

《風》

北 辰 一 硯

風に一喜一憂するのは、人間側のエゴです。作者の率直な気持ちが出ており、すがすがしい作品です。

◇ 入 選 ◇

《雁》

今 野 きよし

雁が行く
いくつもの群れ
大きな群れ
小さな群れ
数多く

雁の性質
いろいろあって
そっちに行ったり
こっちに来たり
それでもどこか

落ちつかぬ
形を変えて
横になり
かやかやと

目ざして行くは
大崎耕土
仙台平野
寝坊の雁も
二、三ある

雁の世界に
事情があつて
逸れたり
若いやんちゃも
まじっている
集団まとめる
リーダー
居ないという

【選評】

《雁》

今野 きよし

雁が形を変え、かやかやと飛んでいく様子が目に見えるようです。かやかやという表現がとてもいいと思います。

雁の世界を人間社会に例えたところは、ユーモアがあつてとても愉快です。



今野 きよし

窓開けて朝の空気を存分に吸える幸せうれしくなりぬ

【選評】

この作者の特色は生活の中で見落としそうな、ちよつとした感動をみごとに表現するところにある。この歌の「吸える幸せ」は詠めそうでなかなか詠めないところと思う。

◇ 佳作 ◇

北辰 一硯

両陛下新生園を訪問の記事読む胸のときめきて居り
梅雨明けてギラギラ輝く太陽を部屋一杯に入れて掃除す

短歌

長田雅道選

◇ 入選 ◇

北辰 一硯

菊のご紋の車しずかに動き出す旗振る
我等に手を振る美智子妃殿下

【選評】

この作者は、私が選歌を担当させて頂いてはじめての出詠である。しかし、長年作歌をされてきた方に思われた。字余りの歌に特色がある。この歌の結句もこれでいいと思う。

今野 きよし

腕輪念珠掛けて念仏称えたる身体の中までめぐる清しさ
ふる里は根こそぎ津波に流されて我が家残れど危険区域になれり
夏風邪の長びく吾を見舞いける君の笑顔に涙こぼるる
リハビリに早く来てよと臥す吾に励ます声の明るくひびく

間食をしないようにと心がけ実行できぬ
心の弱く
朝食を待つ間の静寂ゆっくりと心落ちつ
き歌を詠みおり

俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

野遊びの疲れを癒すいわし雲
今野 きよし

【選評】 野遊びは春の季語、いわし雲は

秋、なれど広々とした山野の草々は様々に色づく樹木の紅葉に疲れを忘れての楽しい一日。静かな空は大なる瀬をさかのぼる様ないわし雲。心の底まで癒される喜びがある。

齊藤 照雄

カラコロと木の実寮舎の屋根ころげ

【選評】

木の実がころげ落ちる様をカラコロと感うことなくとらえた事が俳句にふさわしい音。寮舎の屋根であれば尚更心がカラコロと明るくリズムの有るくらしを楽しんで下さい。

園 永 泊

ふるさとの凍て大根の軒にゆれ

【選評】 ふるさとはいくつになっても恋しい。季節ごとに思い出がある。

この度は凍大根の季節がやって来た。さぞや忙しいことだろう。飴色になって軒にゆれて居る景が懐かしく見えてくる。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

荒れ土手に真白くゆれる萓の花
さっそうと歩いてみたい草紅葉
故里を想う目ざし秋の雨

齊藤 照雄

狂い咲くつつじを囲む寮友ら

落葉たき囲みそれぞれ手をかざし
紅白に分かれて楽し雪合戦

園 永 泊

人の世に耳をすませず枯れ尾花
民主主義風に学ぶや今年だけ
毒茸と思いがちで蹴られけり

川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》 長沼蓮花
初サンマふっくら焼けて私です

【選評】 秋の味覚サンマ。旬のサンマをふっくらと焼いて、「私です」と言い切る作者は、まさにサンマも私も旬よ、という高らかな宣言でしょう。ユーモアたっぷり的一句です。

◇ 佳 作 ◇

桜山南仙
米の値にうなずきあっている稲穂
美しい言葉もかれて散る木の葉

桃生小富士
幸福が進まず風の冷たさよ
拉致の子の安否日本中が待つ
睡眠の妨げお前は前立腺

齊藤照雄
ランドセルみち草しろと土手の花
笑い合うそこに来っていた福の神

今野きよし
一身を難聴認知溢れおり
言い残しあるよな顔の見舞い妻
動じない妻の意志には敵わない

《地位》 桜山南仙
何事もなかった夕日美しい

【選評】 想定外のことばかりの昨今、なにごともなく暮れる一日にほっとする作者。夕日をしみじみと眺めるのは、霊長類の人間とチンパンジーだけとか、しみじみと人生を振り返る時間でもありましょう。

《天位》 齊藤照雄
ちっぽけな夢に癪支えられ

【選評】 ある時は、偏見にも苛まれた病気を抱える作者の本音の一句。胸に迫るものがありますが、「夢に支えられ」の下句に慰められます。「ちっぽけな」との形容された「夢」、これにも感動しながら拝読しました。

長沼蓮花
物価高愚痴を肴に独り飲む
主婦の意地見せるサンマの詰め放題
ごめんねが素直に言える心欲し



よろしく願いします

看護助手 伊藤 友美

九月一日より東北新生園第一メープルケアセンターで看護助手として勤務させて頂いております。伊藤友美です。ユミのユは友と書きます。以前は、病院で内科病棟の看護助手の仕事と介護施設では特別養護老人ホームと認知症対応型生活介護グループホームで働いておりました。介護職に就くきっかけは、介護の仕事に興味があったので、当時働いていた職場のボランティアで老人ホームの清掃に行きました。その時に、入居されている方と関わったことで、介護を必要とする方の役に立ちたいと思うようになりました。

ぼんぼん

北村 小 蝶

私はうさぎを飼っています。

顔も体も真っ白でふわふわ、両耳と目の周りだけが黒い、まるでパンダのようなうさぎです。顔の周りの毛が長く、たてがみのように、「ライオンラビット」という品種のうさぎだそうです。どこからどう見てもライオンには見えません。瞳は黒く、耳が短い、顔が大きく体の小さいちんちくりなうさぎです。

うさぎの名前はぼんぼんです。

ボンボンというのはフランス語でキャンディーやマシュマロなどの砂糖菓子のことを指すそうです。このことを知った時、私はお

住まいは栗原市築館です。高校は三年間バスケットボール部に所属していました。周りにはミニバスケットボール時代からやってきている中で初心者の方が入るのは勇気がいりましたが、思い切って入部。最初は練習についていくことすらやっとでしたが、元々好きなバスケットだった事もありますし、先輩やチームメイトの支えがあつて三年間やり通す事が出来たことが良い思い出です。

簡単ではありますが、ここまでを自己紹介とさせて頂きたいと思います。

早いものでこちらに勤務してからあつという間に二ヶ月が経ちました。一度に色々覚えられないので、職員の皆様、入居者様にはご迷惑をお掛けしておりますが、私なりに努力して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

しゃれた名前をつけたものと我ながら感心しました。確かに我が家のボンボンは白くて甘い砂糖菓子のようなです。

しかし、実際の命名の時にはそんなことは考えていませんでした。

ぼんぼんは右目が白く濁っており、よく見えないようです。右目はいつも乾燥して涙を流していて、毎日目薬をつけています。繁殖場で生まれた時から目は悪かったようで、ペットショップでは売れないので誰かもらつてほしいと里親募集がでていたのを引き取りました。

右目が見えない、といえば、宮城が誇る武将、独眼竜の伊達政宗と同じではないか！というところで「マサムネ」と名付けようとしたのですが、ふわふわのかわいいうさぎがマサムネでは合わないとクレームが入りました。そこで親しみやすいようマサムネから一部とって「ムネさん」と呼んでみたら、おじさ

んくさい、と更にクレームが入りました。そこで、伊達政宗の幼名「梵天丸」から一部とつて「ぼんぼん」と呼ぶことにしました。うさぎの名前ひとつ決めるのも楽ではないと感じました。

さて、このぼんぼんですが、私が大学生の頃、京都に住んでいた時に飼いはじめたうさぎです。引き取った時は既に大人で、二〇〇三年四月生まれと聞きました。つまり、二〇一四年現在十一歳ということになります。なんともご長寿なうさぎです。

大学を卒業した時も、京都から他県に引越した時も、宮城に帰ってきて新生園に就職が決まった時も、ずっと一緒でした。引越しの時にはぼんぼんと一緒に新幹線にも近鉄特急にも乗りました。

三月十一日の震災の折に余震が怖かったので、ぼんぼんを含め家族みんなで茶の間で寝起きしました。我が家は停電と断水が一ヶ月

しかし、野生のうさぎの寿命なんてきつと一年やそこらなのだろうから、きつと十一年も耐えられるような体のつくりではないのだろう、とも思います。長生きうさぎも苦勞が耐えません。

ぼんぼんが日なたで丸くなってうとうとしている姿や、無我夢中でキャベツを食べているところを見ると、なんとも幸せな気分になってきます。

どうか、化け猫ならぬ化けうさぎになるくらい長生きして、これからずっと我が家の一員であってほしいと思います。

ほど続きましたが、非常時なのにいつもどおり丸くなって、のぼんぼんと眠っているぼんぼんの姿に癒されました。

齢を重ねても元気なぼんぼんですが、最近困っていることがあります。それは、足の裏の床ずれです。

うさぎの足の裏は、犬や猫と違って肉球がなく、すべて毛で覆われています。うさぎは普段丸くなって座っているのですが、このため後ろ足のかかとの部分の毛がはげて、地肌が見えて赤くなっているのです。

時折痛そうに足を持ち上げるので、何とかして治してやりたい、と強く思うのですが、薬を塗ればきれいに舐めてしまうし、第一、薬を塗ろうとするだけでも嫌がつてあばれて逃げてしまいます。仕方がないので、少しでも足が痛くないよう、ふかふかの敷物を何枚か重ねて部屋の床の上に敷いています。まったく困ったものです。



寿司屋台(まとい寿司さん)



パネル展・屋台まつり

—平成26年11月5日～6日—



宮城ハンセン協会提供
「梅后流 江戸かっぱれ」

随筆

隣の爺ちゃんと女の子

今野 きよし

A 女の子 B 爺ちゃん

A 爺ちゃんこの頃さっぱり来なかつたな
B 畑仕事忙しかったから
A 忙しいって何仕事していたのや
B 豆引き小豆もぎとやっていた
A 終わったのか
B まだ終わらない
A そんなに仕事あるのか
B 豆引き小豆もぎ終わったら畑掘りある
A うん、まだやることあるのか
B 麦蒔き終わって秋仕舞、終わりだ
A 爺ちゃん何作っても食わないでないのか

A B 食っている
A 売りもしない食うもしないで
B 仙台の息子の所さやるんだ
A 食糧難だから喜ばれたでないの
B 喜ばれた又頼むって
A それではええごどしたんだね
B うん、まあ嫁も孫も喜んでいて
A 畑仕事終わったら隣り村まで行って来る
B のか

A B そのうち又行くべな
A それはそうと爺ちゃん腰に下げているの
B 何入っているのや
A あいつか、大した物でない
B おら、軽い物でも入っていたかと思つて
A ああ、そうでない
B 隣の村に行つてどこさ寄つて来るの
A この間はばあさんの妹の家さ寄つて来
B た、妹は亡くなつて甥っ子居るから
A この間、甥の人来たけつな、伯父さんに
B しばらく会わないから来て見たつて

A B そうか来たつたのか
A 大抵の人、おら家の前通つて行く
B それではこつちの前通らせて貰つてい
A のか
A この間なんか爺ちゃんの親戚の人が亡く
B なつて知らせの人二人来た
A ああ、あの時かこつちの家で休ませて
B 貰つてな
A あの時も三十分位経つても来ないし、帰
B るからつて戸の口まで出たところ爺ち
A ゃん帰つて来た
B そんなに待つたのか
A 用事のある人、おら家の前から帰る人居
B る
A 今度出ないようにする、いつも誰かを
B 待つているようにするか
A 爺ちゃん隣り村どこどこさ寄るの
B 甥っ子の家、それから竹山さん、畑中さ
A ん、平山さんと三軒寄つて来る

A 甥っ子の人しばらく会わないからつて
B 云つていたね
A なん忘れたんだ寄つたのに
B 爺ちゃん又うそばかり語つて
A おら、うそもほらも語つたことない
B この間も、じゃがいもに肉入れて煮たの
A 食つて来たなんて、あの話ごちそうに
B なつて来たのか
A そうだつてが、そんな話語つたつげがな
B またとばけて爺ちゃん、いつも新しい話
A 聞いて来るね
B おれ、町の中とか金持ちの家さ行くから
A 新しい話聞いて来る
B 爺ちゃんの話ほらでもうそでもないんだ
A ね
B そうだ、ほらだと思つて居たのか
A 爺ちゃんこの間の話、甥っ子の家と他に
B 三軒寄つて来た話、三軒とも村で二、三
A 番の大地主でないのか

B そうだよ、それがどうしたか
 A 大地主だなんて初めて聞いた
 B おれ云わなかったか
 A ずらつとしてほらばり語っている
 B あの話ほらになるのか
 A 又とぼけていつも本気になって聞いているとすつとんとやられてしまう
 B おれ、そんなにほらばかり吹いているのか
 A 三日ばかり前に兄ちゃんが暗くなつても帰って来ないので心配した、そしたら爺ちゃんの話聞いて喜んで帰って来た
 B あの時か、うん来たな、そう云えば長話した
 A うん心配した、暗くなつても来ないし何かあつたかと思つて
 B おら家さ来る人あまりないから長くなつた
 A 爺ちゃんの家、エリの家つて云うんだね

B みんなそう呼んでいるな
 A エリの家つて云うから昔えらい人でも住んで居たのかと思つて
 B それはわからない、とにかく古い家だ
 A 爺ちゃんなんでも知っているから何かあるんでないの
 B 先祖の人に聞いておかなかったからわからない
 A そうだよ、居ない人に聞かれないものね
 B あのなエリつてな奥の方つて云うんだ、山の奥とか奥座敷とか云うように
 A そういうわけか、難しくないんだね
 B 今日えがったな、話も出来たし早く帰つて休むことにするか
 A おやすみ又来てね、待つているから
 B 隣の爺ちゃんは帰つて行つた
 A この話は昭和二十年頃のことである